

晴れた日には出かけよう！  
～まちのミリョクを再発見!!～

3

えんま  
平井の閻魔さま



下平井の三吉野下平井地区にある保泉院には立派な閻魔さまがいらっしゃいます。

平井の閻魔さま、として親しまれている保泉院(ほせんいん)の『木造閻魔王坐像』は、昭和35年(1960)に東京都の有形文化財(彫刻)に指定されました。

像内に納められていた銘札から、文明5年(1473)に仏師了戒によって造られたとされています。現在はこの銘札が失われてしまっているため確認はできませんが、像の底部に朱漆で永禄年間(1558～70)と慶安5年(1652)に修理をしたと書かれていることや、像の造り等から判断して矛盾はないと推測されます。像の高さは89cm、像の右裾から左裾までの長さが124cm、ヒノキ材の寄木造となっています。

かつてこの閻魔王坐像は、日奉重清によって創建された平井郷の閻魔堂に安置されていました。現在はその面影は残っていませんが、下平井交差点を日の出インターの方へ少し行ったあたりになります。それを江戸時代の末に、当時から三吉野下平井地区にあった保泉院の境内に移してきたのだそうです。



閻魔王坐像

平成18～19年(2006～7)には東京都の補助を受け像の修理が施されました。修復により全体を覆っていた慶安5年の修理時の彩色や紙貼りが除去され、下にあった漆面を表に出したことで、造像当時の姿に復元されました。その閻魔さまの見開かれた瞳、つりあがった眉、憤怒の表情はまるで、参拝に訪れた人の全てを見抜いていると云わんばかりの迫力を感じます。

閻魔王は、冥界の王で、人が生前に犯してきた罪を裁く十王(10人の裁判官)の中心的な存在とされています。人は死後、極楽行きか地獄行きを決めるために10回の審判を受けますが、閻魔王が自ら行う審判は、5番目の審判に当たる五七日(35日)になります。また、仏教では閻魔王は地藏菩薩(お地藏さま)の化身とされ、その憤怒の形相は、再び罪を犯さないよう叱咤しているからなのだそうです。

閻魔堂には閻魔王像の他に、木造俱生神立像が2体(1対)と、木造奪衣婆坐像が1体安置されています。俱生神は閻魔王の侍者で、亡者の罪状を読み上げ、判決を記

録する役目を持ちます。奪衣婆は三途の川の畔にいて、生前の業を計るために死者の衣服を剥ぎ取ると言われています。



閻魔王像と侍者の俱生神像

保泉院の境内には閻魔堂以外にも幾つかの石塔などがあり、その中の一つに日の出町を代表する廻国供養塔があります。この供養塔は、通常は蓮の花を象る反花と呼ばれる台座の部分が亀になっている珍しいもので、江戸時代の石工の作品と思われます。

保泉院の木造閻魔王坐像は朝6時頃から夕方5時頃まで自由に拝観することができます。

..... アクセス .....



日の出WALK(観光マップ)【M-8】

